

【ねがいはましては】

令和5年1月4日

KYOWA SCHOOL

第385号

「ある叫び」

ここ数回の【ねがいはましては】をふりかえり、灰谷健次郎さんの著書から、改めて『変わっていない』としみじみ感じています。何が、今の学校と20数年前の学校です。消防車のサイレンのように、突き刺さってきました。

『灰谷健次郎の発言〈4〉』—すべての怒りは水のごとくに—より、ある中学3年生の少女が書いた文章です。

—この三年間、私は中学生という肩書でいたけど実際は違ったと思います。中学校なんか一カ月も通わなかったからです。小学校の頃から時々休んでいたけど、中学では一カ月通ったきりまったくといっていいほど学校には行きませんでした。この三年間は私にとって大切な時間だったと思います。(灰谷さんは、この時点で「動悸がした」と書いています) —中学校に入ってから、急に時間がなくなってしまいました。それは慣れてしまうとなんとも思わなくなることもなのかもしれませんが、私は慣れることができないように思いました。でも学校はそれなりに楽しかったです。それは勉強とかではなくて、授業中に先生に隠れてする友達同士のおしゃべりや、手紙のやりとりでした。それはとても楽しかったんだけど、とにかく時間がなかったように思います。学校へ行っても、スケジュールが全部つまっていて、家へ帰るのは夕方です。そこでもう、私はとても疲れてしまいました。でも、宿題をやらないといけないし、私は塾へ行っていなかったけど、行っている人はどこに自由な時間があるんだろうとっていました。つまり、考える時間がなかったのです。勉強以外のもっと大切なことを、自分で納得のいくまでとことん考える時間がありませんでした。だから何かに疑問をもつような時間もなかったのです。だから私は、学校を休んでいる時はいつも何かを考えていました。—

この文章の後、灰谷さんは「つらくなった」と書いています。「学校は今や、ものを考える場所ではなくなっているということ、これまで、いろいろな人が指摘してきている」と。

-勉強以外のもっと大切なことを
-自分で納得いくまでとことん考える時間
-何かに疑問をもつような時間

灰谷さんは、この3行を繰り返し強調しています。

灰谷さんは続けます。「教師に聞きたい。何かに疑問を持ち、それを、とことん納得いくまで考えるのが『授業』ではないのか。この少女は『勉強』と『大切な事』をはっきり区別している。少女にとって、『大切な事』の逆の位置にあるのが『勉強』なのだ。(中略) 学校でいうところの学力の75%は、記憶力に過ぎないと分析した学究がいるが、そうだとすれば教師の仕事の75%は、子どもにもものを覚えさせる、ということになる。

続けて少女は次のように結んでいきます。

—中学校は勉強についていけない子はダメというような、落ちこぼれというレッテルをはってしまって、まるで勉強ができないと生きていけないというような考え方を、意図的ではないにしろ、知らず知らずのうちに植えつけてしまうようなところがあると思うのです。もちろん学校によっても違うだろうし、すべてがそういう学校だとは思いませんけど、でも少なからずそういうところがあるように思いました。—

そして灰谷さんは言います。「おそらく少女は、感受性や想像力が抜群なのであろう。しかし、それは学校に行かないことによって温存できたものとすれば、なんという皮肉であろうか」と。

そして少女は決定的な文章を書きます。

—学校というか、私たちよりも長く生きている大人に教えてほしいのは、数学や英語だけじゃなくて、人間として大切なことが一番だと思います。私たちはまだ若いから、これからたくさん壁にぶつかったり、時には粉々に砕けてしまうかもしれません。そういう時に、マイナスからゼロに戻って、また壁へ向かっていく力を、大人から教えてもらいたいと思うのです。私は学校を否定するつもりはありません。でもほとんどの子供は、絶対に行かないといけないという状態です。でも、それだけではなくて、他の道も選べるような世の中にしてほしいと思います。そしたら、学校へ行かないとダメな人間になるという考え方がなくなると思うのです。家で勉強しても、学校へ行っても、自分の学習したいことだけ勉強しても、ちゃんと人として認めてもらえるような世の中になれば、私たちももっとニコニコして人間らしく生きていけると思うのです。—

私は思います。この本が出版され約25年経った今、学校は以前のまま全く変わっていないと.....

この少女のような子がたくさん現れ、全員が教員になり、今の学校に強く強く立ち向かってほしいと.....。目的はただひとつ、『また壁へ向かっていく力』を教えるために.....。

今でも子どもたちは意味も分からぬまま板書を写し取っています。漢字を書いています。→内申のために.....。生徒会長へ立候補する子がいます。→内申のために.....。懸命に記憶します。→テストのために。成績のために。順位のために。親にしかられないために.....。

私の想いはただ一つ.....生きようとする力を育んであげたい。少女の言う『壁へ向かう力』です。